

問題の一環として取り上げられ、また国あるいは各自治体としても非常に
考慮している。こういうふうな大きな問題になります。やはり、これを
ントにしてPRというものが絶対的に必要だと思ひます。したがって、各担当に
おきましてどのような重要な問題が出るような場合には、やはり特別なPRを
としていくという方が効果的じゃないかというふうに考へて、現状と考へ
しては、PR方法としては現在出しております広報をもつて措置するといふ
うに考へております。

それから成人病対策につきましても、やはり、これからは予防といふふうなも
のに重点をかけるわけですが、確かに部並びに保健所等で実施している以
外にも市町玉田が多い検査もござります。これらにつきましては、財政の
措置によつてある程度配慮できますので、今後財政との考へ方をとりまし
て、ぜひとも予防の關係につきましては検査のできる範囲の努力をしてい
たいというふうに考へております。

以上、私の方の二点につきまして御答弁申し上げます。

○福祉部長（林田 猛君） それでは私の方から、第二点目の身障者対策に

つきまして御答弁申し上げます。

非常ベルでござりますが、福生市では過去に、昭和四十九年度に五〇、
五十年度に五〇、五十二年度に四〇、合計十四台設置したわけがござります。
これは一応修所得者の一人暮らしの老人が主であります。中には身体障害者
者も含まれております。それらにつきまして、現在私の方にはそういう要項が
ございませんですが、今後とも必要がありますれば、関係機関とも協議い
たしまして、引き続き設置していきたいというふうに考へております。

○十一番（原 敏子君） それでは自席から再質問させていただけます。

まず第一点目の保健衛生についてですけれども、健康センターの人員の問題
私は確かに六月議会でお問題を質問いたしまして、いまだ中でやっていきな
い。その中でやる限りのこと健康センターの業務としてやっていくんだといふことを
あの当時も部長は答へられたわけですから、たしか健康センターの職員
は四名だったと思うんです。四名の職員の中で四百八十人の市民の健康を
つとめていく、これは、言つてみれば専門家であるお医者さんですら不足する
というのは大変なことだと思ひます。この四名の職員の中でできる限りやっ

ていくといふも、私は、当然限度があると思ひます。いまの職員の人たちも、いろいろの点で非常に苦勞しながら、健康センターの業務を行つていられると思ひます。

ここで一つお聞きしたいんですけれども、健康センターにつきまして、別に会館を一つつてこれの業務を行つてゐるわけですが、一つには市民会館や公民館、また当分の、公民館の分館みたいなああいうところまで一つ建設されますと、当然そこにはその業務が円滑に進むような、そういう専門職を要するわけですね。市民会館にしてもそうですね。公民館にしても図書館にしても、健康センターについてはそういう点がどのように考えられていられるのか。確かに係長が保健婦さんでいらっしゃるけれども、この係長が保健婦という仕事と同時に、事務もとらなければいけない。言ってみれば一人で二役も三役もやるような、こういう中에서도無理がくるんじゃないかと思ひますけれども、このような点について、これは部長に聞いてもらつたとむづかしいと思ひますけれども、市長は先ほど最後の所信表明だと言われました。

てあれですけれども、最後まで誠意を尽くしていきたいと言われたところ、ぜひ市長のおまうへを聞かせていただければと思ひます。この点どういふふうになつてゐるのか。

それとPRの件なんですけれども、いまの広報でやつていきたいと言われましたが、健康センターに行くと、こういうのを係長が独自で努力されてつくつて置いてゐるわけです。これは健康センターに行つていろいろ話をする中で、こういうのをつくつてゐるからぜひ見てくださ、と言われます。とても涙ぐましい努力だと思ひます。こういうせっかくいいものを市民の多くの人に見せて、やはり婦人のがんとか成人病だとかということがいま世論的に非常に高まつてゐます。これを公の問題のようにと、さう部長が言われましたけれども、私は公の問題もとても重要な問題だと思ひますが、市民の命を守るという点では、私は公の問題と比較しても決して小さな問題ではない、というふうにも思ひますので、これは再三出す必要がないにしても、やはり生に何回かだけでも出すようにされたらいんじゃないかと思ひます。これは出るわければ間に合はないんじゃないかというふうに思ひます。

それと成人病の検診、これにつきましていろいろ成人病の検診につきまして
検診の希望者の多いのも、定員に足らないのもあると思います。五十四年度
の子宮がんの検診、これは一月の末に行われたんじゃないかと思いますが、
この中で東京部の定員が、検診できる人が百七十一名でした。それに対し
て希望者が二百六十四名、約百人の人がその中で抽選で漏れたわけです。
この子宮がんの検診、これこそ早くそのときに見つけなければ必ず命が助かるとい
うふうに言われている。私はこういう病氣は、希望者のすべての人に検診を
させてもらえるようにした方がいいというか、しなければならぬんじゃないかと
思います。東京部の予算の関係で百七十一名というふうになったようです
けれども、これは私はあと百名ぐらい、市で持ち出してでも、当然やらなく
てはならなかったのではないかというふうに思いますけれども、その点どうなのか。
どうしてこれができなかったのか、あとの約百名、これは財政的にだめだったのか。
できれば子宮がんの検診は、一人当たり検診するのにどれくらいお金がかかる
かということも教えていただければと思います。

ぜひ、この問題も、子宮がんだけでなく、今度の予算書を見ます

と乳がんの検診もやるように大きく市民の要求を取り上げていただい
ておられますけれども、なお健康の問題ですから努力をしていただきたいとい
うに思います。

それと障害者の非常ベルでございますけれども、一人暮らしの老人対策と
して当初やられたと思うんですが、いま十四台設置され、やはり私は
障害者の方たち、部長はこれからも住民に希望があればつけていきたいと
いうふうに言われましたけれども、ぜひ障害者の方たちにもPRをいたしまして、
ぜひ、こういうものがあるけれどもどうなのかということを聞いていただけるよう
な、そういう積極的な姿勢をぜひとっていただきたいと思います。その点もう
一度質問したいと思います。

○市長(石川常太郎君) 私にお尋ねのようでございますが、実は健康センタ
ーも、私といたしましても職員といたしましてももちろん人員をよけいにして充
実したいのはやまやまでございます。しかし、予算の制限、それまた各行政
の分野での職員の逼迫がありますので人員の増加がなかなか許せませんので、
いまのところ、最低限でやっているわけでございます。できればもちろん人

のおっしゃられたようにやるのが、より以上にやるのが好ましいわけでございます。
なかま一度にできないということでございます。私どもいたしましたとしても、どこか
削れる場所があるかどうかということでございます。どこか削ってセンターがも
やればよろしいわけでございますが、削ればまたほかに穴があくというようない
でございます。非常にむずかしいところなんですございますが、そういう点で太
いに各部とも苦勞をされているところでございます。

できるだけ私たちも氣をつけてまいりますけれども、建設をいたしましたか
らまだ日も浅うございますので、健康センターをつくるだけでも議会の先生方
のえらい御活躍をいただきまして御迷惑をおかけいたしましたして、資金も獲
得には大変な御努力をいただいたわけでございます。また私どもの方でも大
変努力したわけでございます。

そんなわけでようよう建物ができたと、これからおいおい注意してまいります。
建物ができそれに伴わない内容ではつくりないう方がよかつたんじゃないかと、そう
言われてしまえば非常に残念でございます。ぜひひとつ待つていただまして、
できるだけ健康センターの方も早く充実するように心がけてまいります。しかし、

どこかに穴があきます。うはあいてもなるへ、影響がないようなところにあける
ということになると思います。

それから、原則的にはございしますが、病気というものは、伝染病以外は
ほとんど個人のものでございます。個人のことはなるべく個人で氣をつけていた
きたと思います。それはたてまえでございます。もちろん市といたしまして、も
財源に余裕があるならば、市民でございますの十分御指導をし、ごめん
うを見るということとは当然のことでございますが、なかなか当市としてはなかなか
まだいかないうことでございます。でございますので、これは私からお願い
でございますが、ぜひひとつ豊かな所になるように、税金がさくうへただけ
うな市になるように御協力を賜りたいと存する次第でございます。

後の点につきましては、担当部長よりお答え申し上げます。

○市民部長(金子国利君) それでは後の二項目の御質問の点につきまして御答
弁申し上げます。

まず一点のPR問題でございますが、しおり等、確かにいま配付してござ
いますけれども、それらにつきましては、やはり先ほど市長が申しましたとおり、やはり

各自の予防というものを一番認識させていたるところであると思いますが、各地域にそういうふうな組織をつくって、それに基づいてある程度PRをしていくという方が効率的じゃないかというふうに、ただまへんなく広報だけで流すよりも、やはり直接そういうふうな地域ごとにグループをつくらせて、それに対するPR的なものを植えつけていくということが一番予防面においては効率的な方法じゃないかというふうに考えてますので、これらを五十五年度に一応取り組みたいというふうに考えております。これには、まず若い婦人層と、私は組織的にある程度もつていくことが必要じゃないかというふうに考えております。

それから次の、先ほどの御指摘の子宮がん等の検診の市町王者が非常に多いのに打ち切ったというふうな問題でございますが、金額にして一人大体三千五百円程度の検診料がかかります。したがって最近の乳生がんですが、そういうものにつきまして各市民も自覚のつきようでございますので、非常にやう、うい自分の予防というものに関心が深くなってきたわけですから、これは非常にいい傾向だと思ふんですが、がんだけでなく、あらゆる面にやういうふうな考え方を市民が持つてくるならば、市としてはやはりそれに対応していくだけの考え方があ

ります。したがって、五十五年度におきましては、そのような子宮がんの市町王者がほとんど入るようならば、それ相応の措置をとりたいというふうに考えております。

それから乳がんを新しくここに取り上げるわけですが、確かに職員はいろいろあれども、その中で専門の医師を頼みまして措置すれば、それもPRに効くわけですから、必ずしも職員だけでなく、そのような方面からもPRの措置をとりたいというふうに考えております。

○福祉部長(木村 猛君) それでは私の方から御答弁申し上げます。

PR方法でございますけれども、幸い福生市には身体障害者福祉協会がございます。会長以下、非常に熱心に会員のために尽くされております。また、会員数も二百名近くにもなっておりますし、重度の方はほとんど加入して、いろいろな現状でございます。それらにお願いいたしまして、要項等を取り寄せて、いったらば一番いい人ではないかというふうに考えておるわけでございます。

それとなお、これらにつきましては消防署との関係もありますので、市民部の方とも協議いたしまして、これらの制度を進めていきたい、こういうふうに考えて

おります。

○十一番(原 敏子君) それではまず、先ほど再質問の中の一点目の健康センターの会館、これは他の市民会館や図書館などと同じような、いま充実がなされていないけれども、基本的にはそれと同じような専門職が必要だということをやさぐさ言いたかったというふうに、私は解釈しております。

そういう中で、やはり先ほど市長が言われましたように、建設してから日も浅いし、職員もまだまだ不慣れな点もあると思います。そういう中で、当然市民の皆さんの要望は、いろいろな角度からいろいろある点も多くあつて、と思うんです。いまの社会情勢の中ではあります。ふえてくるとも思います。そういう点では、私は四人の職員ではなかなか大変だし、先ほど市長が言われましたように、つくらないうちがよかったというふうに私も市長も思っているわけではなくて、よりよく健康センターが使えるようには、健康センターが本当にあってよかったと言われるような、そういうものにさらに発展させて、きたいという点で、私はいま質問させていた感じがあります。その点念を押しておきたいと思っております。

病気というのは、やはり健康は自分持ちというふうによく言われます。確かに

そのとおりだと思えますけれども、なかなか素人では、いまがんなどというものは、特に自首一症状が起さうからではもう手おくれだと言われているように、やはり検診ができるものは率先して検診して、早く病気を見つけるといことが、やはり健康センターで出ているこの検診の中にも書かれているわけです。私もどうもこういうのを読みまして、本当にがんというのはこわい、どこからできるのかその原因もまだわからないうことは、やはり検診する以外に、自分の命を守ることをするもできないうことを再認識するわけです。そういう中で、私はPRと、この病気にしてもこれはよい効果を生むということと同時に、これは関連しまして、病気にならないう点で、国保の財政も守られていく人ではないかというふうに思っています。そういう点で、先ほど部長が各地域にそういう組織をつくらせてPRしていく、私はこれは本当にいいと思うんです。

市内にも婦人の団体が幾つかあると思います。そういう団体——もうできている組織を利用して、ぜひそこでPRに努めていた方が、多くの方が手おくれにならないうちは、こういう健康センターをつくったときの意義あるものにしていただきたいと思っております。

基本構想の中にも書いてあります。行政だけが進めたいのではなく、住民みずからもこういう健康センターの業務と一体となつて、この予防を進めたいことが健康センターを生かすことだということです。基本構想の中にも書いておられますし、私もいまの予防医者の点から見ても、医師や行政だけでなく、やういう地域の住民とともに進めたいことが、よりよい結果を上げるといふふうに考えております。ですから、やういう各地域の組織を早急につくっていただき、常にやういう健康の問題についての改訂案を回っていただきたい。やういう中でPRのやういうパンフレット等へかもぜひ出していただき、市民がみんな同じやうなところで健康センターの位置づけができるようにしていただきたいと思っております。

それと子宮がんの問題については、年々希望者がふえればというふうに言われたいけれども、いまの人員の中でよりよい効率を上げて健康センターを維持していくという点では、やういうものを、百名多く希望者が来れば、百名分の予算を措置するということは、これはもう人員の問題関係なくやっていくと思っておりますので、ぜひこの点、早急に五十五年度の今度にはがんの検診になる

と思ひますけれども、やういう点でぜひがんばつていただきたいと思ひますけれども、子宮がんの問題についてはきつと五十五年度もこのようになると思ふんです。私も抽せん会に参加させていただけましたけれども、すぐ積極的な声が非常に高いわけです。それでがん検に行きたいという声も出しましたし、やういう点で今度の五十五年度予算に含んでないように思ふんですけれども、この点、希望者が年々ふえればということではなくて、五十五年度から措置していくやうな計画を持っていた方がいいと思ひますけれども、この点ひとつ聞かせていただきたいと思ひます。

障害者のベルにつかましては、ぜひやういう組織を通じまして改訂案していただき、皆さんから喜ばれるやうな、やういうベルを設置していただきたいと要望しております。

○市民部長(生子国利君) それでは最後の子宮がんの申し込みに対する計画的な考え方につかまして御答弁申し上げます。

いま現在のところでは、子宮がんの検診が一番希望者が多いです。確かに、いまの数字からいいますと百名程度の受診ができるというわけです。これにつかま

してもほかとの検診という問題もございすけれども、現在の主に行っている子宮がんが主たるものでございすすが、他市におきましてこれらの措置を考へてゐるようですので、市としても五十五年度中にやういうふうな状況を見ながら、努めていきたいというふうに考へております。

○十一番(原 敏子君)

それでは保健衛生について要望をさせていただきます。

健康センターも他の会館と同じように専門職が必要だということは、先ほどお聞きしましたので、基本的には職員の増員で、そして職員のよりプロ的な、やういう指導者のもとで市民の健康、そして地域住民の健康センターに対する関心といふすか、自分の健康に対する関心も、健康センターがどれだけ市民の皆さんと一体となって業務を推進していくかということに、何をやるにも基本があるというふうに考へております。

やういふ点では、やはり健康センターの職員——専門職の増員を図っていただくまで、よりよい健康センターが運営されていふすように私は強く要望しておきまして、住民がふえないうちでできないということではなくて、いま部長が言われましたように、いまの人員の中でもやっていけるような施策を取り

上げていただきます、さらに健康センターの充実を図っていただきますように強く要望しておきまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長(小林菊三君)

十一時十分まで休憩いたします。

午前十時五十九分 休憩

午前十一時十二分 開議

○議長(小林菊三君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に十二番 松山清君。

(十二番 松山 清君登壇)

○十二番(松山 清君)

二点にわたって一般質問をさせていただきます。

初めに基地問題についてであります。

私は、いままでも一般質問や質疑等たびたび市長の基地問題に対する姿勢をただしてまいりましたが、市長は常に市民の苦しみには余り耳を傾けず、政府の基地政策に同調し、米軍横田基地への忠実な奉仕者として、

その役割りを担ってまいりました。

私が議員になつてからの九年間を見ても、市長は関東計画のように、基地拡張であるミドル・カーの設置に対しての市道占用の許可、東京部の都府地返還訴訟への不支援、騒音公害訴訟に対しての同じく不支援、基地への核持ち込み疑惑などに対しては、日本政府の見解に盲信的な態度など一連の政治姿勢とともに、米軍人への軽自動車税の特権的減免の継続や水道水一日五千四百五十トンの給水協定の締結、また下水道料金の小口扱いによる大幅値引きなどを実施してまいりました。特にこれらはいずれも市条例の改定まで行つて、米軍へのサービスを実施するということであり、ここには地方自治などという精神のかけらも見当たらない。まさに政府と米軍への忠実な奉仕者としての役割りを果たして来たのではないかと 생각합니다。

かつてアメリカ議会のサニット委員会で、米軍が外国における基地を安定的に使用するには、何よりも基地周辺の自治体の協力が必要だと、そのために米国は苦悩をしているとの趣旨が報告されておりますが、石川市長の四期——十六年間の基地に対する態度は、まさにアメリカにとって頼もしい援助者として

して映つたに相違ありません。

その一方、市民生活はどうか。毎日、基地騒音に悩まされてゐることを初めとして、米兵による交通事故や傷害事件など数限りありません。また、福生市の生活環境の上で大きな影響を受けおるわけであり、このような市民のおかれてゐる状況にもかかわらず、かたくなに基地奉仕の姿勢をこ続けたことに対して、私は憤りを覚えるものであります。

いま市長は、ここで四期——十六年の任期も残すところわずかながらありますが、基地問題に対していろいろやってこられたことに対しての反省、また総括をされておられると思いますが、これらについてお聞きしたいと思ひます。

それから福祉問題についてですが、やはり市長は、福祉に対して、たとえば市のやる仕事はすべて福祉につながるなどと言つてみたり、また都市施設の整備と急がなければならぬと言つて、結局のところ福祉に力を入れたい口実をあれこれ設けて、福祉施策の充実に後回しにしてまいりましたことは、まことに遺憾なことであります。

やはり、このような福祉にとつてきた態度、このようなものについて、任期も残す

ところわずかとわり、総括、また、いろいろ反省等もされておられると思います
が、このようなことについてどのようにお考えになつておられるのか、いままでもいろい
ろ尋ねてまいりましたが、この場をかりまして改めてお尋ねする次第であり
ます。

以上二点にわたって一般質問をさせていただきます。

(市長 石川常太郎君登壇)

○市長(石川常太郎君) 御答弁申し上げます。

第一点、基地についての考え方でございますが、私は松山先生の意には反しま
けれども、やったことにつきまして総括的に間違いないかと思つております。山形
点が違ひますのでやむを得ないと思ひますけれども、また詳しくは申し上げま
せんけれども、「そうだと呼ぶ昔あり」かつて世界大戦に私は従軍いたしまして、満
州から多くの滅亡した国を見てまいりました。十ヶ国近くになります。主権の
なくなった国、あるいは主権の弱い国の国民がいかに生活に困窮しているかといふこ
とをこの目で確かめてまいりました。日本人がそのようにならないようにするためには、
前から言ひましたように、確かにこの地に横田基地はない方がよしいんでございま

すけれども、なかなか移転が容易でございませぬので、やむを得ないと思ひてい
るわけがございます。

ただし、市民の受ける各種の被害については、これは国は最大限に補
償すべきであつて、まだまだ私は足りないと思つております。もっともつとわれわれ
の納得のいくように国は基地に害に悩まされておりまする住民に対して十分の補
償をすべきであるといふことは私も強く考へております。また強く主張をし
ているところでございます。どのような主張は主張、いたしまして、いままでも私が
とつてまいりました基地に対する基本的考え方については、間違つていないかとい
ふことはいまでも考へております。私はあと二ヶ月余りでやめますので、どうぞ御
安んじをいただきますと思ひます。(笑声)

二番目の福祉の問題でございますが、これは私は、市の行政はほとんどが
福祉に係りあり、その福祉の基盤は学校教育のみでなく、あらゆる社会
教育、これらの充実にあるといふことを申し上げてまいりました。

私は不勉強でございしますけれども、イギリスを初め、ヨーロッパにおきまして、
高水準の福祉がまさに国を滅ぼす人としております。税を非常に高くした。